

令和5年度 立川市立南砂小学校 授業改善推進プラン

学校の教育目標	○元気な子 ○考える子 ○思いやる子 ○がんばる子
---------	---------------------------

児童に育成を目指す資質・能力	複数の教科や学年全体に共通する取組
○基礎・基本の習得 ○思考力の向上 ○体力向上	・一人1台タブレット PC の活用 ・協働学習の場の設定 ・体育朝会の取組

教科	教科で育成を目指す資質・能力	資質・能力を育成するための具体的な取組（学習活動など）
国語	○自分の考えを自分の言葉で話す力 ○日常生活における人とのかかわりの中で意見を伝え合う力 ○共通、相違、事柄の順序など、情報の関係性について理解する力 ○文章を読み、条件に合わせて要約する力 ○読書を通し、自分関係について理解する力や、思いや考えを広げる力	・児童が目的や意図に応じて感じたことや考えたことなどを書くことができるように、計画的に書く活動を取り入れる。 ・目的や相手を意識して伝え合う力を身に付けるために自分の意見を発表する機会を増やす。 ・他教科の学習活動と合わせ、情報を読み取り、情報と情報を関係付けて考え、自分の意見をまとめる学習活動を意図的に行っていく。 ・授業以外に、朝の読書タイムや、学期ごとに実施される読書旬間を生かし、読書の習慣を身に付けさせる。
社会	○社会的事象を捉え、比較・分類したり、地域の人々や国民の生活と関連付けたりする力 ○社会に見られる課題を把握し、考えたことや選択・判断したことを適切に表現する力	・比較する社会的事象の相違点や共通点を書き出したり、図に表したりする。 ・比較したり関連付けたりして考えたことを、文章に表す機会を増やす。その上で、グループや全体で話し合い、その理由や背景を推論していく学習を取り入れる。 ・日本と世界の伝統・文化等に関する理解を深めるために、国旗や国歌、世界遺産等について調べる学習を取り入れる。
算数	○文章を読み取り、正しく演算決定をする力 ○思考力、判断力、表現力等を必要とする問題を解決する力 ○図形を構成する要素や図形間の関係などに着目し、図形の性質や図形の計量について考える力 ○日常場面の事象を数理的に捉え、問題を協働的に解決する力	・問題場面を図や表に表す活動を通して、内容理解を促す。 ・身に付けた知識及び技能を生かして解くような、思考力が高まる問題を多く扱う。 ・日常生活に関連させた場面を提示し、数直線図やテープ図などを用いることで量感覚を身に付けさせる。 ・教え合いや、互いの考えを共有する場面を設定する。
理科	○予想や仮説について、考えの根拠を明らかにして他者に伝える力（中学年） ○実験結果を比較しながら考察する力（高学年）	・既習の知識から仮説の設定や観察・実験の計画を立案し、意見交流をする学習場面を設ける。（中学年） ・実験結果を表やグラフなどに整理して考えたことを議論し、自分の考えに根拠をもって他者に伝える学習場面を設ける。（高学年）
生活	○主体的に活動する中で自分の気付きを生み、それを比べたり例えたりしながら高め、伝える力 ○気付いたことや考えたことを表現する力	・見付ける、比べる、例える、工夫するなどの多様な学習活動を行い、気付いたことを基に考えたり表現したりする経験を積ませる。また、地域との実際の交流活動をできる限り実施していく。 ・表現する際にタブレットPC等を利用して検索した情報を付け加えたり、分かりやすく伝えたりしていく。
音楽	○曲想と音楽の構造などのかかわりについて理解する力や、表したい音楽表現をするために必要な技能 ○音楽表現を工夫することや、音楽を味わって聴くことができるようにする態度	・導入時に、歌詞を読んだり楽譜を見たりして気付いたことを話し合う場を設定する。また、教材を通して楽しく基礎・基本が身に付くよう、教師の声かけを工夫する。 ・音楽を形づくっている要素を使い、音楽を聴いて感じ取ったことや想像したことを伝え合うなどの言語活動の充実を図る。
図画工作	○感じたことや発想したことをどのように表現するか考えたり、友達や身の回りの作品を見てそれぞれのよさを感じたりする能力 ○用具や材料の基本的な扱い方や表現の方法を知り、それを活用しながら自分なりの表現をする力	・ワークシートや鑑賞活動、参考資料を通して、自分の考えをまとめたり、いろいろな表現の方法を知ったり、よさに触れたりさせていく。 ・様々な用具や材料に触れる機会を設定し、それらを扱う技能を高め、自分の思いを表現するのに適した用具や材料を選択できるようにする。
家庭	○日常生活をよりよくするための工夫を考える力 ○習得した知識や技能を家庭生活で生かす力	・日常生活から衣食住に関する課題を発見し、解決に向けて解決策の検討、計画、実践、評価、改善といった学習活動を通して課題を解決できるようにする。 ・全ての児童に分かりやすく、扱いやすい教材を選択する。

体 育	○運動の基礎的な知識や技能 ○自らすすんで運動に親しもうとする意欲 ○仲間と協力したり、互いの考えを認め合ったりする経験を通して、学びに向かう力	・授業展開を工夫し、1単位時間当たりの運動量をなるべく多く確保する。 ・様々な運動に触れることができるように、年間指導計画を工夫するとともに、体育的活動や環境面を充実させていく。 ・仲間と対話する場面を設定し、かわり合って取り組む楽しさや作戦などが成功する喜びを実感できるようにする。
外国語活動・ 外国語	○外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむこと ○既習の知識を使って、自分の伝えたいことを、外国語を使って話そうとする態度 ○外国語で友達とかわろうとする力	・ICTを活用して世界の文化を紹介することで、児童の外国語を学ぶ興味・関心を高めていく。日常生活に関する身近な題材を教材化していく。 ・自分の学習を振り返り、自分の思いや考えを伝えるためにはどんな表現が適切か再構築する時間を設ける。 ・コミュニケーションを行う目的や場面、状況の設定を明確にした言語活動の時間を意図的に設ける。